

## 要介護状態になるリスク（一般高齢者と要支援認定者）

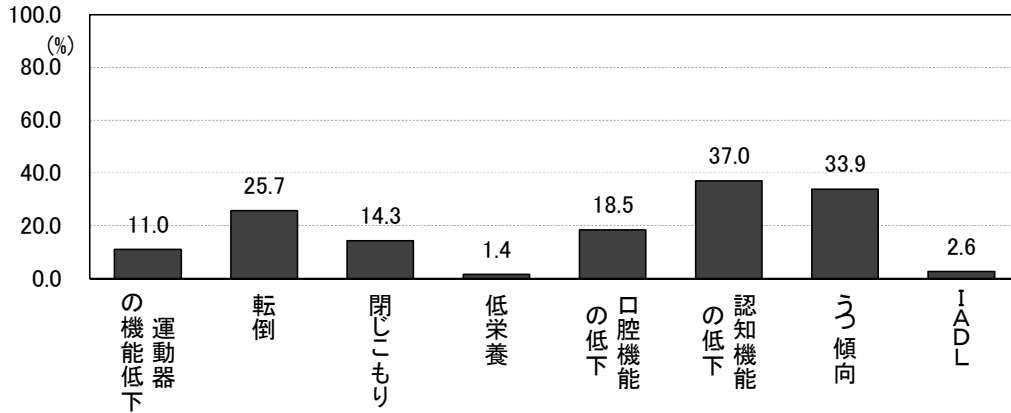
- 国の「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の手引き等を踏まえ、要介護状態になる各リスクについて以下のように整理する。

リスク等	一般高齢者	要支援認定者
運動器の機能低下	問 6-(1) ～(5) の 5 項目のうち 3 項目以上で該当する選択肢を回答した場合	問 6-(1) ～(5) の 5 項目のうち 3 項目以上で該当する選択肢を回答した場合
転倒	問 6-(4) で該当する選択肢を回答した場合	問 6-(4) で該当する選択肢を回答した場合
閉じこもり	問 6-(6) で該当する選択肢を回答した場合	問 6-(6) で該当する選択肢を回答した場合
低栄養	問 7-(1) でBMI が 18.5 以下で、問 7-(8) に該当する場合	問 7-(1) でBMI が 18.5 以下で、問 7-(8) に該当する場合
口腔機能	問 7-(2) ～(4) の 3 項目のうち 2 項目以上に該当する場合	問 7-(2) ～(4) の 3 項目のうち 2 項目以上に該当する場合
認知機能の低下	問 8-(1) に該当する場合	問 8-(1) に該当する場合
うつ傾向	問 21-(1) ～(2) の 2 項目のうち 1 項目でも該当する場合	問 21-(1) ～(2) の 2 項目のうち 1 項目でも該当する場合
IADL*	問 8-(4) ～(8) の 5 項目で「できるし、している」または「できるけどしていない」を 1 点とし、合計値が 3 点以下であればリスク有り	問 8-(4) ～(8) の 5 項目で「できるし、している」または「できるけどしていない」を 1 点とし、合計値が 3 点以下であればリスク有り

※買物、洗濯、電話、薬の管理など活動的な日常生活を送るための動作のことを、「手段的日常生活動作（Instrument Activity of Daily Living：IADL）」といい、その自立度から、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる。

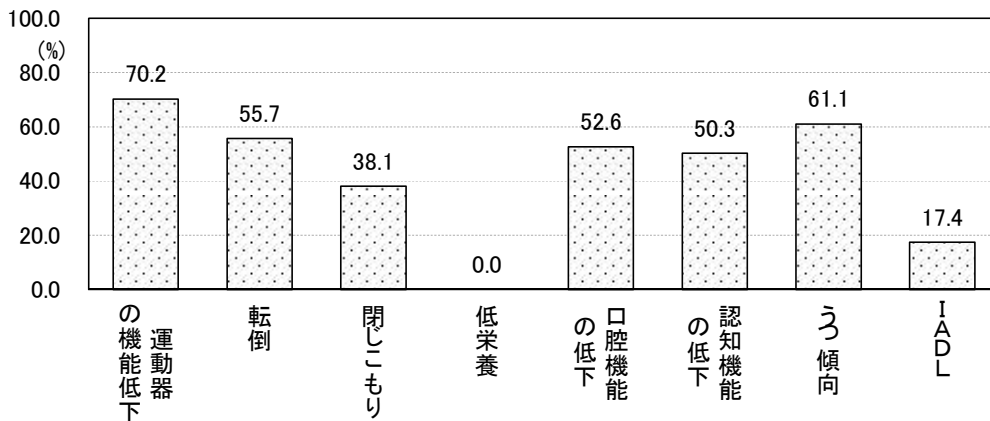
- 一般高齢者の要介護状態になるリスクの状況を見ると、「認知機能の低下」リスクが 37.0%で最も多く、「うつ傾向」リスク (33.9%)、「転倒」リスク (25.7 %) がつづく。

【一般高齢者で要介護状態になるリスクがある人の割合】



- 要支援認定者の要介護状態になるリスクの状況を見ると、「運動器の機能低下」リスクが 70.2%で最も多く、「うつ傾向」リスク (61.1%)、「転倒」リスク (55.7%) がつづく。

【要支援認定者で要介護状態になるリスクがある人の割合】



- 一般高齢者に比べて要支援認定者では、「IADL 低下」リスクが 6.8 倍、「運動器の機能低下」リスクが 6.4 倍、「口腔機能の低下」リスクが 2.8 倍、「閉じこもり」リスクが 2.7 倍、「転倒」リスクが 2.2 倍増加している。

【一般高齢者と要支援認定者で各種リスクがある人の割合の比較】

